



森 さやか
Sayaka Mori

9

INTERVIEW

「生活」の実感を大切に、
アナウンサーとして情報を提供

仕事は断らないのがモットー！ だけど子どもたちを第一に考えています

学生ときは教師をめざしていましたが、「人に教えること」と「情報を伝えること」は似ていると思い、試しにアナウンサーの採用試験を受けてみました。すると意外にも道が開けていったのです。華やかな印象とは異なり、下準備に何日も費やす地味な作業の多い仕事ですが、そこにやりがいを感じています。

夕方の情報番組『イチオシ!』の司会を任されてからも、がむしゃらに仕事に没頭する日々が続く中、ひとりの女性として生き方を考える時期も重なりました。身近に子育てしながら働く女性が少なかったこともあり、それをする自分をイメージしにくかったのです。仕事か出産か…と悩みましたが、家族の後押しもあって両立を選択しました。その後第二子の出産も経験し、今は多くの人に支えられていることに感謝しています。華やかさを求められることの多い女性アナウンサーですが、主婦であることや育児を通して、視聴者の方々との共通点が増えることをいかし、親しみやすいアナウンサーをめざしていきたいですね。

PROFILE

千葉県出身。大学卒業後、北海道テレビ放送（HTB）入局を機に札幌へ。アナウンサーとして仕事を続けながら、2児のママとしても奮闘中。ブログではマイブームでもある「キャラ弁」を時折紹介している。

ブログ

<http://www.htb.co.jp/announcers/mori/>



現在の仕事(活動)と やりがい

HTBのアナウンサーとして、ニュースやドキュメンタリーの内레이션を担当しています。現在は、金曜日午前9時55分～「情報マルシェ」MCやバラエティ番組「ハナタレナックス」では大泉洋さんら、チームナックスの5人と共演。イベントやシンポジウムの司会など、幅広く活動しています。

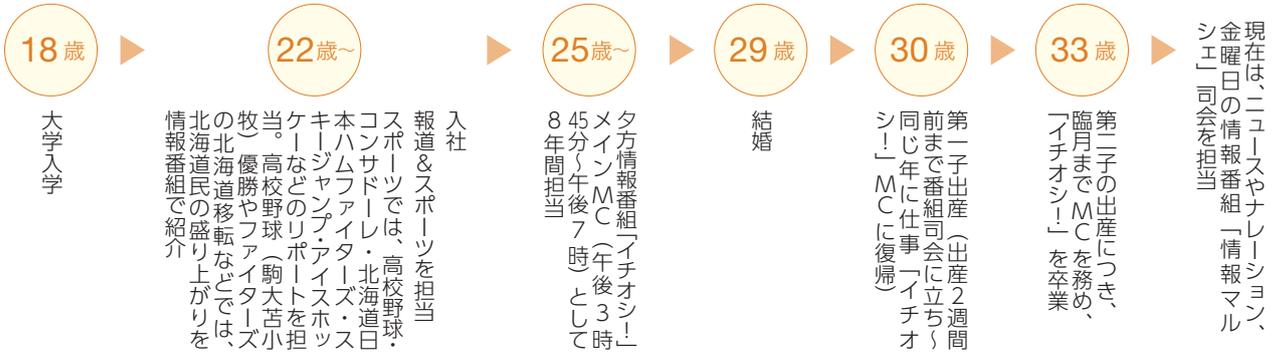
女性が活躍する上で、 不足していること

夜間保育や学童保育の拡充。また、保育料に上限を設ける（月7万以上は行政が補助する）などの配慮も。認可と不認可の保育所では費用の差が大きく、19時以降も預けられる認可保育所はほとんどありません。3人、4人と子どもを望みたくても、保育料や教育料の負担が重くなるので、行政や社会の保障が進むといいなと思います。また企業側には出産後の復帰プログラムの充実等のサポート体制の整備も大切だと思います。



①メインMCを担当したHTB番組「イチオシ!」。スタジオでヒロ福地さんとツーショット ②ニュースを伝えることにやりがいを感じる(2005年当時の写真)
③2010年9月、地上デジタル放送のPRイベントにも登場

ライフ 年表



キャリアでの 忘れられないエピソード

第1子出産時、子育てと仕事の両立をする女性社員がとても少なく、「本当にできるのだろうか?」と、とても不安でした。当時担当していた番組が、「産休」を受け入れてくれて、しかも「復帰」を待っていてくれたことがありがたく、「頑張らなくては!」と励みになりました。

仕事と家庭の両立で 工夫していること

仕事は断らないをモットーにしていますが、子どもたちを第一に考えています。家族の理解がないと続けられないので、普段から「今日はこんな仕事をしたよ」と子どもたちにも話しています。すると土日仕事があるときも「〇〇に行くんでしょ?がんばって」など言葉をかけてくれることもあり、大変心強いです。

プライベート(休日など)の 過ごし方

休日は、子どもたちと一緒に遊び、買い物などにも出掛けます。夏はお弁当を持って公園に行き、冬はスコップを持って公園でかまくらづくりなど。ゆっくりする時間は今はまったくありませんが、それも楽しんでいます。

女性が活躍すること についての意義

今、社会に求められているものは「多様性」ではないでしょうか。その中に「女性」の価値観が含まれていると考えます。社会の選択肢がたくさん広がるように、活躍する女性のロールモデルがもっと増えたらいいですね。

将来の 展望・目標

TVというメディアを通して、ひとりの女性として、北海道の政治や社会の課題、情報を伝え続けていきたいです。母親の目線と子どもの目線もふまえて、「生活」の実感を大切に、地域社会を見守り、みなさんの暮らしに直結するような、役立つ情報発信をしていきたいと思っています。また、元氣な女性たちを、TVでもたくさん紹介していきたいです。

後輩女性への メッセージ

人と比べる必要はないと思います。自分の意志で納得して選択すれば、他責の気持ちや嫉妬の気持ちも生まれにくいと思います。そして、環境が変化しても、諦めずにまずはチャレンジしてみてください。きっとなにか手立てはあるはず。わたしもまだまだ模索中ですが、道を切り拓けるよう、一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。